

たまねぎレポート【第411号】



令和4年1月27日

阪南青果株式会社

社内報

昨年12月の天候は、全国的に寒暖の差が大きかった。降水(降雪)量は、北日本の日本海側でかなり多かった。日照時間は、西日本の太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった。月後半に日本海側を中心に大雪となった。北海道は、月前半は高温、後半は低温で、下旬の日本海側は記録的な大雪に見舞われた。1月は全国的に平年に比べ気温の低い日が多い。

気象庁の2～4月の3か月予報では、平均気温は北日本で高い確率50%、沖縄・奄美で平年並み、または低い確率ともに40%である。月別予報は次の通り。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同

様に曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。東・西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年同様に曇りや雨の日が多い。

4月、北・東日本の日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の概況

建値市場の12月の野菜の販売量は、225,773トン前年比96%(前月比99%)、平均単価はkg ¥226前年比115%(前月比111%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥192前年比117%。東京市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥239前年比113%。名古屋市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg ¥219前年比120%。大阪本場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥227前年比118%。福岡市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥182前年比114%となっている。

建値市場の12月の玉葱の販売量は24,791トンで前年比86%、(前月比99%)、平均単価はkg ¥161前年比224%(前月比108%)。市場別には多少のバラツキはあるものの総じては、入荷減の単価高となっている。市場別で

は、札幌市場の販売量は3,814トン前年比97%、平均単価はkg¥125前年比216%。東京市場の販売量は8,942トン前年比90%、平均単価はkg¥182前年比241%。名古屋市場の販売量は6,537トン前年比82%、平均単価はkg¥149前年比209%。大阪本場の販売量は3,590トン前年比76%、平均単価はkg¥164前年比222%。福岡市場の販売量は1,908トン前年比82%、平均単価はkg¥169前年比209%となっている。今月も大阪本場の販売減が目につく。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の12月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が99,534トン前年比5%減、平年(過去5年平均値)比4%減。平均単価はkg¥133前年比20%高、平年比3%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ネギが前年比7%増、ニンジンが4%増、ハウレンソウ・ピーマン・サトイモが2%増の5品目。販売量が前年比減の品目はジャガイモが前年比16%減、トマトが10%減、タマネギが7%減など7品目。前年と同量が2品目。前年比高となった品目はタマネギがkg¥134で前年比120%高、ジャガイモがkg¥175で47%高、トマトがkg¥386で33%高、レタスがkg156で26%高など6品目。前年比安の品目は、ネギがkg¥276で前年比25%安、ニンジンがkg¥80で13%安、キャベツがkg¥54で8%安、など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の12月の野菜の入荷量は、123,111トン前年比96%(前月比100%)。平均単価はkg¥239前年比113%(前月比111%)で入荷は前年比やや減で、価格は前年比前月比ともやや高くなっている。タマネギ、バレイショが前年比大幅高、ネギ、キャベツが大幅安となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、サトイモが前年比112%、キャベツが106%、ネギが103%など6品目。入荷が前年比減の品目は、バレイショが前年

比80%、タマネギが90%、ホウレンソウが92%など9品目となっている。価格は前年比高の品目は、タマネギがkg¥182で前年比241%、パレイシヨがkg¥214で151%、レタスがkg¥195で136%など7品目。前年比安の品目はネギがkg¥260で前年比79%、キャベツがkg¥56・ニンジンがkg¥103・サトイモがkg¥316でともに89%など8品目となっている。

東京都中央卸売市場の12月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	123,111	96.3	100	239	113.3	111.2
た ま ね ぎ	8,942	90.1	109.7	182	240.5	107.7
は く さ い	15,358	93.6	97.3	34	113.2	81
キャベツ	13,993	105.7	90.5	56	89	82.4
だ い こ ん	10,778	100.6	92.9	60	95.5	109.1
に ん じ ん	8,567	95.3	108	103	89.4	100
レ タ ス	6,595	95	94	195	135.8	140.3
ば れ い し ょ	6,877	80.2	115.6	214	150.8	109.7
ト マ ト	4,478	92.7	100	452	132.2	88.3
ね ぎ	5,696	102.6	105.6	260	79.3	114
か ぼ ち ゃ	2,464	104.3	100.9	226	103.5	150.7
な が い も	813	84.9	130.4	302	95	99.7
れ ん こ ん	1,157	83.4	126	597	159.5	143.9
に ん に く	223	85.8	103.2	1,112	95	102.5

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の12月の玉葱の入荷量は8,942トン前年比90% (前月比110%)。主力の北海物の入荷は8,284トン前年比86%、占有率は93%前年比4ポイントダウン。中国物は546トン前年比354%、占有率は6%前年比4ポイントアップ。佐賀物は58トン前年比91%、占有率は1%で前年と同じ。総平均単価はkg ¥182前年比241% (前月比108%)。産地別では、北海物はkg ¥185前年比251%。中国物はkg ¥120前年比124%。佐賀物はkg ¥330前年比91%。となっている。

1月に入り、主力の北海物は年内出荷が前進化したことや、年末からの大雪による輸送の乱れ等で初荷の入荷が後ズレし、直送品の入荷は月半ばとなった。市場関係者の越年在庫は、異常高値を警戒し少なかった。静岡の早生玉葱は、寒波による低温続きで球肥大が遅れ、入荷量は計画比半減状態が続いた。月前半の総販売量は前年比60%前後となったが、目立った品不足はなく、相場は保合で推移した。月半ばから北海物の入荷は正常に復したが、球流れは小粒化で、2L、L大級が少なく、L、M級中心で、2L、L大の品不足が続いている。北海物は産地在庫が少なく、此の先、当分は品不足が続きそうだ。静岡物の入荷は依然少なく、正常な入荷は2月ズレ込みそうだ。

1月5日～20日の入荷量は4,552トン前年比82%、平均単価はkg ¥188前年比200%。静岡物の入荷は予想を下回り、中国物が増加した。産地別では、北海物の入荷は3,831トン前年比78%、平均単価はkg ¥185前年比231%。静岡物は384トン前年比67%、平均単価はkg ¥270前年比131%。中国物は291トン前年比359%、平均単価はkg ¥121前年比116%。となつ

ている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の12月の玉葱販売量は、537トン前年比82%（前月比97%）で前年比、前月比とも減となっている。主力は北海物で、販売量は、426トン前年比81%、占有率は98%前年比2ポイントダウン。中国物は89トン前年比392%、占有率1%前年比1%アップ。兵庫物は9トン前年比487%。総平均単価はkg ¥149前年比210%（前月比105%）。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥150前年比211%。中国物はkg ¥115前年比131%。兵庫物はkg ¥286前年比115%となっている。

1月に入り、北海物の初荷は当初から例年より遅れると聞いていたが、年明け早々の大雪で輸送が乱れ、月半ばになっても着荷は少なかった。不足分は在庫品で対応したが、引き合いも少なく、深刻な品不足にはならなかった。スーパーなど小売店の年末年始の売れ行きが芳しくなかったためと思う。静岡物の極早生は、冷え込みで生育が停滞し、日量1トン程度の少量入荷で、顔見世程度にとどまり売り込みが出来ない始末。昨今では、愛知物が隔日に3トン程度入荷している。品質は静岡物に比べ、多少扁平球があるものの、L中心で良好である。北海物は道東地区中心の入荷だが、数量的に少なく品薄で、転送物で補充しながら凌いでいる。多過ぎるのも遣り辛い、少な過ぎるのは更に遣り辛く苦労が絶えない。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の12月の玉葱の販売量は、3,590トン前年比76%（前月比109%）で先月同様前年比減、前月比増となり、北海物が入荷が相変わらず少なかった。産地別の販売量は、北海物が2,966トン前年比69%、占有率83%前年比8ポイントダウン。兵庫物は585トン前年比135%、

占有率16%前年比7ポイントアップ。今月も他市場に比べ北海物の入荷減が目につく。総平均単価はkg ¥ 164前年比222%(前月比105%)。数量減で強保ち合い基調であった。産地別の月間平均単価は、北海物はkg151で前年比233%。兵庫物はkg ¥ 230で前年比140%。となっている。

1月に入って、月前半の入荷は日量100トン以下で前年比半減以下の日が続いたが、荷動きが鈍く目立った品不足には成らず、相場は保合で推移した。主力の北海物は、産地在庫の減少で、出荷開始をずらしたことや、大雪による輸送便の欠航で着荷が大幅に遅れた。兵庫の冷蔵物は、学校給食向けの2Lの引き合いが堅調だったが、L・Mの動きは鈍化傾向となった。静岡の極早生の入荷量は計画の半分以下の日が多く、卸では割当て販売が続き、人気は今ひとつとなった。昨今、入荷は増加傾向にあるものの、品不足が続いている。北海物はやや増加したものの、荷動き回復で2L、L大が品不足、L、Mは需給均衡も高値悩み。兵庫物は、品質格差が目立ち、価格差が生じ引き合い鈍化。静岡物は依然として入荷少なく、割り当て販売が続いている。

1月5日～20日の販売量は1,395トン前年比65%、平均単価はkg ¥ 204前年比229%。産地別では、北海物は1,039トン前年比56%、平均単価はkg ¥ 181前年比248%。兵庫物は268トン前年比144%、平均単価はkg ¥ 265前年比146%。静岡物は66トン前年比73%、平均単価はkg ¥ 311前年比136%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の12月の玉葱販売量は、1,908トン前年比82%(前月比95%)で、前年比、前月比とも減少傾向が続いている。北海物が主力で、北海物の販売量は1,581トン前年比74%、占有率83%で前年比9ポイントダウン。中国物は280トン前年比206%、占有率15%前年比9ポイントアップ。

香川物は24トン前年比75%、占有率1%で前年と同じ。総平均単価はkg ¥ 169前年比209%（前月比105%）で前年比、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥ 178前年比228%。中国物はkg ¥ 108前年比130%。香川物はkg ¥ 251前年比147%。となっている。

1月に入ってからも、北海物は大雪の影響で輸送便が乱れ、予定通り着荷しなかったが、品薄が続いた割には荷動きに変化がなく、市況は保合を維持した。しかし、2L、L大は品薄で手当て出来ず、買参人には¥5,000を提示し注文を抑えた。年末まではMの動きが鈍く投げ売りも発生したが、年明けは品薄で在庫は殆ど捌けた。香川の冷蔵物は、品質は良好で球流れは2L、L中心。希望販売値は良心的で助かっている。北海物は2月には更に少なくなると言われ、対応に追われている。

1月5日～20日の玉葱の販売量は910トン前年比92%、平均単価はkg ¥ 178前年比189%。前年に比べ入荷減で大幅高となっている。

1月24日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷96トン 強保合

北 海 20kgDB 2L ¥ 4,300～4,000、L大 ¥ 4,300～3,800、L ¥ 3,900～3,700、
M ¥ 2,500～2,400。

静 岡 10kgDB L ¥ 3,500～3,200、M ¥ 3,000～2,800、B ¥ 2,800～2,700。

【太田市場】 入荷331トン 弱保合

北 海 20kgDB 2L ¥ 4,500～4,300、L大 ¥ 4,200～4,000、L ¥ 4,000～3,800、
M ¥ 2,800～2,600。

静岡 10kgDB2L ¥2,500~2,400、 L ¥3,000~2,800、 M ¥2,600~2,500、
B ¥2,600~2,500。

愛知 10kgDB2L ¥2,400~2,300、 L ¥2,800~2,600、 M ¥2,500~2,400、
B ¥2,500~2,300。

【名古屋北部市場】 入荷100 トン 保合

北海 20kgDB2L ¥4,200~4,000、 L大 ¥4,200~4,000、 L ¥3,900~3,800、
M ¥2,800~2,600。

静岡 10kgDB2L ¥2,600~2,500、 L ¥3,000~2,900、 M ¥2,700~2,600、ぬ
B ¥2,500~2,400。

愛知 10kgDB2L ¥2,600~2,500、 L ¥3,000~2,800、 M ¥2,700~2,500、
B ¥2,500~2,400。

【大阪本場】 入荷161 トン 保合

北海 20kgDB2L ¥4,200~ L大 ¥4,200~4,000、 L ¥4,000~3,800、
M ¥2,800~2,600。

兵庫 10kgDB2L ¥2,400~2,200、 L ¥2,800~2,400、 M ¥2,400~2,200、

静岡 10kgDB2L ¥2,800~2,600、 L ¥3,200~3,000、 M ¥2,800~2,600、
B ¥2,800~2,600。

愛知 10kgDB2L ¥2,600~2,500、 L ¥3,000~2,800。

【福岡市場】 入荷132 トン 保合

北海 20kgDB2L ¥4,800~4,500、 L大 ¥4,800~4,500、 L ¥4,200~3,900、
M ¥3,000~2,800。

香川 10kgDB2L ¥2,300~2,100、 L ¥2,500~2,300、 M ¥2,300~2,100。

供給(産地)の動き

北海道では、年内出荷が前進化し進捗率が計画を上回る状態となったことで、年末年始の出荷停止期間を長くし、出荷を抑制した。年末のホクレンの調査では、年内の出荷進捗率は71.5%に達し、年明けの生食向けの出荷量は91,350トン前年比70.770トンの減少になる。と言われている。年明けから出回る静岡の極早生は、寒波による冷え込みで、生育が停滞し、1月出荷は前年比80%前後(計画は107%)になる予想である。年明け以降増加傾向が続くと予想された輸入物も、国際的なコロナ禍の感染拡大で、海陸輸送費の高騰、海上コンテナの滞留、空コンテナ不足、人手不足等で停滞している。従って2月以降の需給バランスは、今迄以上にタイトになる可能性が高い。

北海道産地

産地では、JA、商系を問わず越年在庫は過去に例を見ない少なさだと言う。特に中晩生種の「北もみじ2000」に切り替わってからは、球流れは予想以上の小振りで、Mの比率が高く、販売に苦戦した。市況は2L、L大は品薄高、Lは保合。Mは弱保合の展開となった。年明けの出荷開始は大雪などで後ズレしたが、平年比(過去5年の平均値)60%前後に減少することで、2月市況は堅調に推移すると予想されている。年明けの市況高を期待して、少量を手持ちしている筋もあるが、品質が今ひとつで、見劣りする物が目立ち始めている。

府県産地

冷蔵物の主産地である兵庫(淡路島)では、高値市況を反映して出荷は前進化し、越年在庫は459,000ケース前年比92%(全玉連調べ)となっている。全国的な越年在庫は約9,650トン前年比92%と報告されている。

例年、1月早々から出回る静岡の極早生物も、年末からの寒波による冷え込みで生育が停滞し、1月出荷は前年比80%前後に留まる状態である。玉葱は

通常生育が後ズレする方が反収増になると言われているので、此の先の増収を期待したい。現在出荷の玉流れは、圃場格差はあるものの、2L6%、L57%、M30%、B6%でB品等の裾ものが少なく良好である。2月は最盛期となるので出荷量は計画を上回ると予想している。

静岡に次ぐ長崎・佐賀の生育は、天候不順で圃場格差はあるものの、昨今の高値市況を反映して、抜き採り出荷が始まっている。生産者の多くに、極早生系は肥大が進むと格外品(分球、裂球)の発生が多くなり、収量は多くなるが収益が低下するので、相場の高い時期は若採りが有利との風潮がある。

輸入動向

12月の輸入は速報値で、26,118トン前年比139%。国際的なコロナ禍により輸送停滞や費用の高騰、人手不足等のほか、コスト高が深刻化し、輸入量は予想量をかなり下回った。主力の中国物は24,570トン前年比133%。アメリカ物が1,539トン前年比540%。オランダが9トンで前年の輸入はなし。

中国、現在の供給産地の甘粛省は、既に終盤を迎えている。今シーズンは増反で国内外の需要も落ち着いた状態で推移していたが、コロナ禍の影響で海上運賃の高騰や資材等の値上がりで、オファー価格は上昇している。後続産地の雲南省は減反ながら、生育は順調と報告されている。現在価格は20kg・C&F、ムキ玉\$12.00、皮付き\$9.60に値上がりしている。

アメリカ、日本向け産地のワシントンの越年在庫は前年比84%。今シーズンは高温・早魃の影響で不作となり、国内マーケットも堅調である。輸出は深刻な空コンテナが不足で船積が停滞している。現在の日本向け価格は50㍍・C&F・Jサイズ\$25.00。LMサイズ\$18.00の水準である。

ニュージーランド、今シーズンの作付面積は前年比96%。現在、主産地のプケコへでは早生種のELKの収穫が始まっているが、高温・早魃・病害の影響で不

作になると予想されている。また、他国と同様に船積みのスペース確保が困難である。と報告されている。日本向けの現在価格は、70～80mmサイズ・20kg・C&F・¥1,900である。

2月の市況見通し

野菜の市況は、天候や需給環境の変化に即反応し、短期間に大きく変動する。今シーズンの玉葱も、高温・旱魃による北海物の不作、冷え込みによる静岡物の生育停滞、国際的なコロナ禍による輸入物の減少など不測の環境変化で、市況変動も激しい。この先、端境期を迎える玉葱の市況見通しは難しい。主力の北海物の産地在庫は、前述の様に希有の少なさであり、輸入は輸送関係の支障が続き増加が困難。新物は低温による生育遅れ、いずれにしても2月の供給量は、予想以上に減少する可能性が高い。他方、需要はコロナ禍による外食筋の低迷と高値悩みで減少傾向が続く。需給バランスはどちらに傾くか予断は難しい。私見では、特に品不足の北海物はL大とLの価格差が縮小し、一時的には一段高になるが、新物の増加と共に軟化すると見ている。2月市況は月前半は一段高か保合い、後半は軟化傾向になると見ている。(了) 笹野敏和 記